

令和 4 年 5 月 22 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00610

研究課題名（和文）ミゲル・ロカ『漢西字典』の研究

研究課題名（英文）Research on Miguel Roca's Diccionario Chino-Espanol

研究代表者

大岩本 幸次 (Oiwamoto, Koji)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：10336795

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、清代に編纂された漢語字典Diccionario chino-espanol（以下『漢西字典』）を精査し、この資料に反映される編纂当時の言語状況や、先行する字書資料からの影響といった問題について明らかにしようとするものである。

研究期間全体を通じて、『漢西字典』と密接な内容的関連を有するSinicorum Characterum Europea Expositio（康熙52（1713）年/以下『漢字西譯』）を補助資料として用いながら、『漢西字典』語彙の表記や語義を特定する作業を進めた。また、『漢西字典』に示される音体系についても概要を把握した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

明末以降に宣教師たちが残した語彙集や文法書については、全体になお開拓を要する段階にとどまり、『漢西字典』に関しても、宣教師の業績を紹介する書籍目録など以外ではあまり注目されてきていない。近年、宣教師資料を用いた漢語史関連の研究が盛んになってきているなかで、こうした未開拓資料について、編纂過程や字典としての独自性の一端を明らかにし、また清代官話の特に語彙や音韻について検討することで、従来の研究にいくばくかの厚みを加えることができ、近世漢語史研究の進展に資する側面も有している。

研究成果の概要（英文）：This study examines the Diccionario chino-espanol, a Chinese character dictionary compiled in the Qing dynasty, to clarify issues such as the linguistic situation at the time of compilation, and its influences from the preceding writings.

Throughout the course of the research, I used the Sinicorum Characterum Europea Expositio (1713), which is closely related to the Diccionario chino-espanol, as a supplementary source to identify the notation and word meanings of the vocabularies recorded in Diccionario chino-espanol. I also obtained an overview of the sound system shown in the Diccionario chino-espanol.

研究分野：中国語学

キーワード：漢西字典 清代漢語

1. 研究開始当初の背景

明末以降に宣教師たちが残した字書や語彙集については、近年さまざまな研究者によって関連の研究が大きく進んでいるものの、なお全体に開拓を要する状況も残っている。

このため、宣教師らの編んだ資料について、先行資料をどう受け継ぎ、どこをどのように変更して編纂されているのか、また、こうした資料に反映される漢語の音韻はどのような特徴を有するものかといった問題について、なお詳細が明らかでない部分も少なくない。

本研究において着目した、Miguel Roca (1661-1757) が編纂した漢語の語彙集『漢西字典』に関しても、宣教師の業績を紹介する書以外ではあまり取り上げられてきておらず、その具体的な内容についてほとんど不明であった。

しかし予備調査において康熙 52 (1713) 年に成った字典『漢字西譯』との(恐らく間接的な)関連が確認されたことが理解の糸口となり、『漢西字典』研究の意義を改めて感じたため、環境整備も含めた本格的な作業を継続することとし、『漢字西譯』を活用した具体的な調査に取り掛かることとした。

2. 研究の目的

本研究は、『漢西字典』独自の語彙について具体的に検討を加え、それらの語彙に反映される音韻特徴などの言語史に関わる問題や、語彙の来源となった資料など編纂過程に関する問題に一定の答えを得ることで、近世漢語史研究の進展に資することを目的とするものである。

従来あまり注目されてこなかった『漢西字典』について、編纂過程や字典としての独自性を明らかにする開拓的研究であり、清代官話の特に語彙や音韻について、新たな資料を用いることで従来の研究に厚みを加えることのできる着実な補完的作業であると言える。

3. 研究の方法

まず『漢西字典』テキストの確定を行った。その際に、先述の『漢字西譯』の内容と比較しながら作業を行った。『漢字西譯』は、『漢西字典』の編纂に際して基盤とされたであろう資料の流れを、直接あるいは間接に受け継いでいるとみられる字典である。『漢西字典』中の誤りや不鮮明箇所などを修正する点においても有用な書であり、『漢西字典』の内容を深く考察する前段階として、『漢字西譯』を用いての『漢西字典』校訂は欠かせない作業と考えられる。

次に、『漢西字典』に記される漢語表記の特定、および語釈内容の日本語訳を行った。これに関しては、中国の漢籍類や字書類を参照し、また『漢西字典』と『漢字西譯』いずれも Basilo Brollo da Gemona (1648-1704) の編纂した語彙集の内容に関連を有することから、後世における該書の仏語訳や、書中の語彙の表記を一部推定した書なども参照しながら表記や意味を特定する作業を行った。

具体的には次のような内容である。

宅(『漢字西譯』第一字目) habitacion 居住. casa 住居. elegir lugar apto par(a?) morar 住むのに適した場所を選ぶ(注:『釋名』「釋宮室」に「宅,擇也.擇吉處而營之也」とある.) tǐ [第宅] Palacio 大邸宅. ˆ chāo [宅兆] sepulchro 墳墓。(注:「兆」字の音は『漢西字典』に“cháo”とあり“chào”と合わないが、「兆」所収の語彙に“chěˆ sepulchro (墳墓)”とみえるところから、“chào”は表記の誤りとみなし「宅兆」をあてる。)

澤(『漢字西譯』第二字目) 『漢西字典』における「澤」字の注解は、一部が綴じ目に吞まれて見えない。そうした不明については推測される内容を()内に補記する。) lago 湖. lavar 洗う. pǒˆ ˆ xèu [不澤手] no lavarse las m(a?)nos 両手を洗わない。(注:『禮記』「曲禮上」に「共飯不澤手」とあり、鄭注に「為汗手(『注疏』校勘記は“汗生”を是とする)不絜也」、また疏に「若澤手,手必汗生,則不絜淨」とされ、食事に際し手をもむ類の行為を禁じる一文とみられる。『正字通』『康熙字典』では「洗濯曰澤」と記し、先の「曲禮」を例に引く。) gēn ˆ [恩澤] grande beneficio 大きな恩恵. pujantes mercede(s) 強力な加護. jūn ˆ [潤澤] gran frescura すばらしくみずみずしい. hermoso 美しい. resplandecient(e) 光り輝いている fertil 豊かな. fecundo 豊富に産出する. fertilizar 豊かにする. fecundar 肥沃にする. ˆ y [澤衣] vestido interior inmediato al cuerpo 身体にじかに接する下着. kiě ˆ [竭澤] pescar donde se acaba la corriente 流れがすっかりなくなった場所で漁をする. fam(a?) 評判. kiūn chūˆ siào jīn chǐ ˆ gū xý ˆ úl chivě [君子小人之澤五世而絶](注:『孟子』離婁篇に「孟子曰,君子之澤,五世而斬.小人之澤,五世而斬」とあり、朱熹『孟子集註』に「澤,猶言流風餘韻也。)

……斬，絶也。大約君子小人之澤，五世而絶也」とある。) la fama de buenos, y malos despues de ci(nc?) generaciones se desvanece 優れた人々，またそうでない人々の評判は五世代を経た後に消える. se pierde 失われる. se olvida 忘れられる. tē [德澤] aprovechar algunos por la do(c?)trina 教えのため数名を活用する。(注：『康熙字典』に「德澤」の義を収め，その例として『尚書』「畢命」の「(三后協心，同底于道，道恰政治，)澤潤生民」を引く。) jūn [潤澤] (注：『漢字西譯』にも“jūn”を収めるが，その意味については，“politum (磨きあげられた)”，また“splendens (輝きを放つ)”と記されている。) beneficio grande 大きな恩恵。

文字種・配列順序・語彙を比較すると、『漢西字典』が『漢字西譯』系の資料を底本とし，その上で独自の語彙を増補した可能性について窺い知ることができる。増補された語彙についてはこれまでのところ経典や字書による増補が目立つが，本研究では資料傾向を正確に把握するため，全書にわたり音表記や意味に基づいて単語の漢字表記を推定し，その語彙の来源について具体的に確認し，特徴を明らかにするための作業を進めた。

4. 研究成果

(1) 2019年度については，先述のように『漢西字典』の内容と『漢字西譯』の内容とを比較する作業を行い，『漢字西譯』を用いての『漢西字典』校訂を行いつつ，『漢西字典』の内容について一定の知見を得た。『漢字西譯』の『漢西字典』にあたえた影響が改めて確認された一方で，『漢西字典』独自の記述もかなり多いことが分かった。

また，上記のように『漢西字典』の内容を順次詳細に検討していく作業を進めることと並行して，『漢西字典』や『漢字西譯』の記述にも時に関連する要素が確認され，記述を理解する上で重要な資料でもある中国の伝統的な古代字書『集韻』(1039)や『五音集韻』(1208)について，先行研究の流れを整理しつつ書の特徴などについて網羅的にまとめた論文や研究ノートを作成し，成果として公開した。

(2) 2020年度については，前年度に引き続き，『漢西字典』の内容と『漢字西譯』の内容とを比較する作業を進めた。作業の過程で，『漢字西譯』には確認できない『漢西字典』の記述に関して，バイエルン州立図書館に所蔵の語彙集に記される内容と合う場合が少なくないことを確認した。バイエルン本は本研究で主対象とした『漢西字典』と比べて収録字数がかなり少ないが，その収録傾向は石崎博志氏が翻刻して内容が知られる『Vocabulario de letra china con la explicacion castellana』と似ており，いずれも『漢西字典』の編纂過程に関わる部分があるのではないかと推測される。

また，上記の作業と並行して，『漢西字典』の内容を考える上で何らかの手掛かりを得られるのではないかと考え，17世紀に編纂されたとみられる『Diccionario Hispanico-Sinicum』に付記されている字音について初歩的な調査・検討を行った。

(3) 2021年度においても，引き続き『漢字西譯』を主たる比較対象として『漢西字典』の内容を確定していく作業を行った。併せて『漢西字典』に採用されている音表記について概要をまとめて発表した。『漢西字典』に使われている音表記の種類は，声調の別もふくめると計1401種となっており，これまで確認する限りでは，『漢字西譯』のほか，Francisco Varo (方濟国) Arte de la Lengua Mandarina に採用の方式に近いようである。

上記の作業により，『漢字西譯』の内容に関する問題について，一端を解明することができたと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 大岩本幸次、Clare GRADY	4. 巻 35巻
2. 論文標題 Diccionario Hispanico-Sinicum 第二字音に関するノート	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国学志	6. 最初と最後の頁 83~100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大岩本幸次	4. 巻 34
2. 論文標題 集韻系韻書研究瞥見	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国学志	6. 最初と最後の頁 73-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大岩本幸次	4. 巻 71
2. 論文標題 金代字書研究概況	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文研究	6. 最初と最後の頁 143-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24544/ocu.20200416-002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大岩本幸次	4. 巻 36
2. 論文標題 『漢西字典』の構成について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国学志	6. 最初と最後の頁 83-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 大岩本幸次
2. 発表標題 集韻系資料と金代音韻
3. 学会等名 第64回国際東方学会議（東京会議）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------